

の地に本源寺ありし頃より、一向宗の道場ありしゆゑ、舊藩祖利家卿入城以來も、此の地に寺院をば集め置かれたりけん。貞享二年の諸寺院由來記を考ふるに、卯辰妙應寺由來書に、天正十三年開祖日宗、金澤枯木町に於て建立。則寺地枯木町にて千七百五十歩、利家卿より拜領之處、大聖寺陣の翌年、御城下惣構堀御普請に付被召上、爲替地修理谷之上にて被下。と見え、又泉野寺町本性寺由來書に、於枯木町寺地拜領、寺建立仕處、御用地被召上、小立野にて替地申請。とあり。又同寺町妙法寺由來書に、利家卿の時、篠原出羽之内室被申上、枯木町にて寺地拜領。其後度々轉地、元和元年於泉野拜領被仰付。枯木町は今尾張町也。とありて、そのかみ寺院多かりし事知らる。されば三壺記に、寛永十二年五月九日の曉、犀川口河原町より出火、堅町筋・南町・石浦町・堤町・尾張町・新町・中町・寺町・おがや町より、田井口へ押通し、淺野川人持衆下屋敷共悉く焼失す。此の時町中を惣構の外へ屋敷がへ被仰付、町割調ひ、侍屋敷等作事年々に相濟みけりとある寺町は、則ち枯木町にて、寺院の集り居たる故に、そのかみ寺町と呼びたるなるべし。

一説に、此の寺町を、今いふ古寺町の如くいへるは非なり。尾張町・新町・中町・寺町と並べ擧げたるにても知るべし。さて此の火災に付き、内惣構の内なる町家共をば屋敷替を命ぜられ、今の如く町割を改められしゆゑ、枯木町の名は此の時絶えたるならん。然らば其の町筋今とは甚だ異なるべし。

○枯木橋

金澤橋梁記に、かり木橋尾張町下也。とあり。今世人もかりきばしと呼び誤りたる也。久保市乙劍社記に云ふ。元龜・天正の一亂に、社壇も衰頽し、境内の林木枯木と成る。此枯木其儘年を経て立ちける故に、此邊の橋をば枯木橋と呼べりと。三州志來因概覽には、此の橋正保の頃までは丸木を並べ、山間の溪川橋の如く、其の頃橋の傍に枯木一株あり。故に世人枯木橋と稱す。といへり。龜尾記に、枯木橋の橋脇にありし枯木は榎木にて、其木近年迄残りありしといへり。今按するに、そのかみ橋邊にさる枯木ありしかど、此の橋名は、舊藩國初の頃枯木町の末なる橋故に、枯木橋と呼びたるならん。枯木町の枯木は何れにありたりけん。

卯辰妙應寺に日蓮上人の木像あり。昔枯木橋の下より掘出せり。故に枯木の祖師と稱すと傳へたり。其の掘出したる時代は詳かならずと。又此の橋をば掛造橋とも呼びたり。十二冊定書に掛造り橋四間二尺。とあり。明治廢藩置縣の後、土橋とはなしたり。

○枯木橋門跡

舊藩中は、尾張町と橋場町との境なる升形に惣構の惣門あり。此の門は淺野川口の惣門にて、犀川口香林坊橋の升形門と同じ。此の門創立の事は記録に所見なし。按するに、慶長六年惣構堀出來の時に創立せしものならんか。元祿三年の火災記に、枯木橋之門并高札場二ヶ所・柵等焼失とあり。高札場は所謂囃託の札場にて、枯木橋の橋下南側にありしかど、廢藩の際惣門と共に取除きたり。

○穢多居跡

加府事蹟實錄に云ふ。昔國初の頃は、松原町の邊町端にて、穢多共居住せしを、枯木橋の邊へ追出し、爰に居住せしむ。枯木橋邊は小島網構場何十ヶ所の一ヶ所也と云ふ説あり。然らば、利長卿の後穢多共所替するか。といへり。三州志來

因概覽に、佐久間盛政金澤在城の頃は、枯木橋は城下の町端なり。故に其の餘波にて、橋畔に後々まで革工の徒住居すとぞ。上文なる丁金小路の條と併考すべし。

○橋場町

金澤通町筋町割附に、五拾五間四尺橋場町。とありて、枯木橋より淺野川橋爪までの間數なり。元祿九年の本町肝煎裁許附に、尾張町・橋場町。と記載す。此の一町今世人懸作りと呼べり。

○懸作り傳話

三州志來因概覽附錄に云ふ。相傳ふ、此の地邊河原にて、一方の岸畔に棧作して纜に商店を開き居き居たりしが、後土地を築立て町地と成し、商家連櫓せしかど、往昔の遺構を存して、今に至り懸作りと呼べりと。龜尾記には、此の地天正の頃は街尾にして荒地なりしが、次第に家建して、今は豊を並ぶる繁昌の地とは成りぬれど、其のはじめ掛造りせし遺名を殘せりと見え、八田圓平が家譜にも此の事を記載すといへり。平次按するに、かけづくりといふは、今世人ほしみせと呼べる出店の如く、往來臨に假屋を設け、